

BBJの試料・情報を利用した論文数の推移(累計)

BBJの試料・情報を利用した論文は、国際的な科学雑誌に2023年時点で414本が掲載されています。



活動報告

20周年記念シンポジウムを開催しました

2024年2月3日に、設立20周年を記念し、「バイオバンク・ジャパン 20周年シンポジウム -ゲノム医療の実装に向けて 20年の軌跡と将来ビジョン」をオンライン配信にて開催しました。文部科学省 今枝宗一郎副大臣のご挨拶、東京大学医科学研究所 中西真所長の開会の言葉に続き、松田浩一教授をはじめとする10名の講演者がBBJのこれまでのあゆみや将来ビジョン、研究成果等に関する講演を行いました。



バイオバンク見学会を実施しています

BBJでは、政府関係者、研究・教育機関、民間企業、患者団体、そして学生など幅広い背景をもつ方々のバイオバンク見学を受け入れています。

2023年11月17日には、サウジアラビア王国のAbdulaziz bin Hamad Al-Rumaih保健省副大臣、および同省内組織幹部8名を含む視察団が来日し、BBJを訪問しました。一行は、BBJ代表の松田浩一教授、事務局長の森崎隆幸特任教授、分担研究者の岡田随象教授によるBBJの概要説明と活発な質疑応答の後、BBJ試料保管施設を見学しました。当訪問は、サウジアラビア王国保健省が、保健医療・バイオ分野での日本との二国間連携を具体的に検討する上で、日本を代表する疾患バイオバンクであるBBJの運用体制などを視察する目的で実施したものです。



BBJのホームページはこちらから

<https://biobankjp.org/>



BBJ公式Xを始めました。

https://twitter.com/BBJ_IMSUT_UT



最新の情報を発信していますので、みなさまのフォローをお待ちしています。

BBJ通信は、研究に参加されたみなさまとBBJの試料・情報の利用を希望される研究者のみなさまに、BBJの活動を報告しています。

バイオバンク・ジャパン事務局

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所内
TEL : 03-5449-5122 FAX : 03-6409-2060

発行者：バイオバンク・ジャパン広報担当チーム 2024.03発行



BioBank Japan

BBJ通信 Vol.26

ゲノム医療の実装を目指して



バイオバンク・ジャパンの血清保管庫

マイナス150°Cを維持したタンク内に約300万本の血清・血漿の保管が可能です。

ごあいさつ

バイオバンク・ジャパン代表 松田 浩一

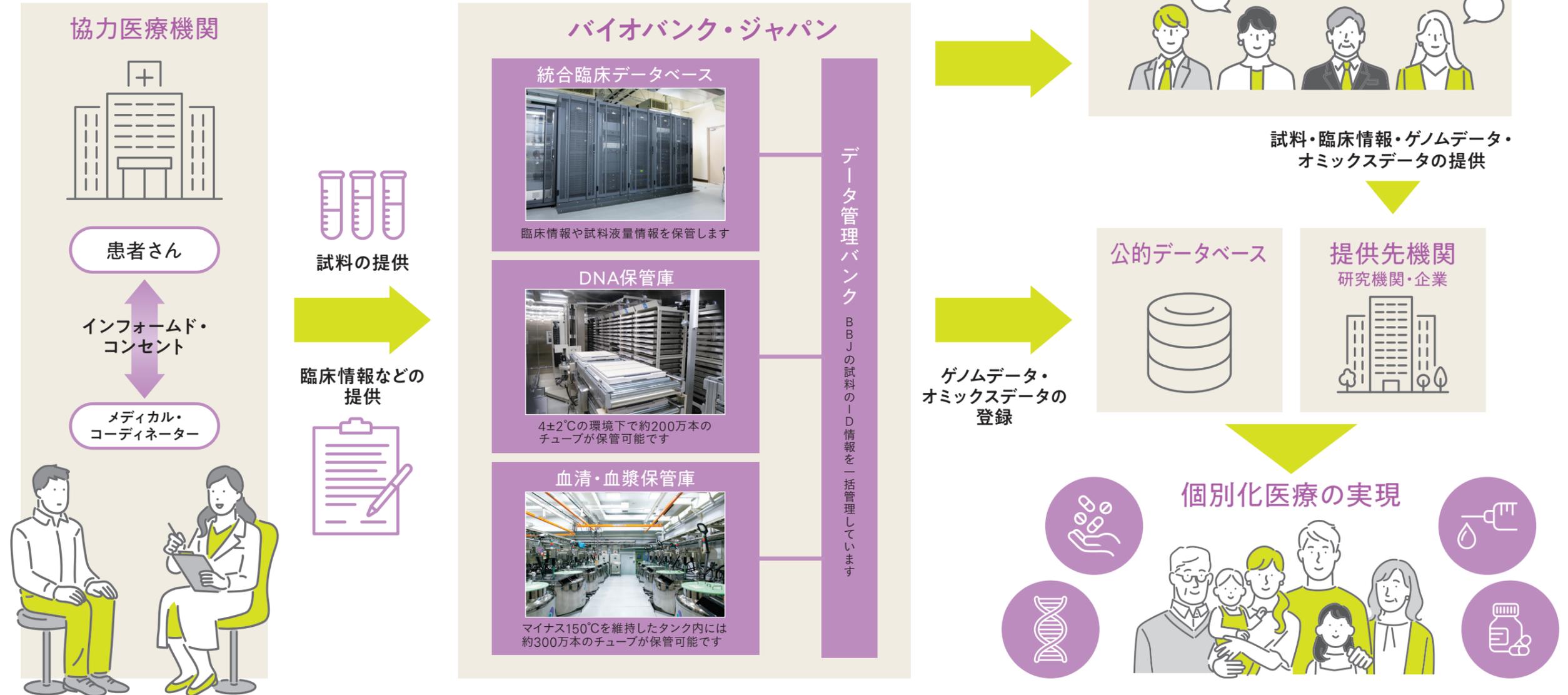


バイオバンク・ジャパン (BBJ) は、2003年に文部科学省の委託事業として東京大学医科学研究所内に発足し、全国の協力医療機関を通じて27万人の患者さんに生体試料とカルテの情報を提供いただき、世界最大級規模の疾患バイオバンクを構築しました。2023年4月からは、第5期事業を開始し、ご提供いただいた試料の解析をさらに進め、ゲノム研究のデータ基盤としての充実を図っています。また、BBJの試料・情報の利活用を推進し、基礎研究・応用研究・実用化研究を行なう研究者を支援することで、ゲノム医療の発展に貢献しています。

近年では、新型コロナウイルス感染症など、私たちの健康の脅威となる疾患やその治療法に変化が生じています。BBJでも協力医療機関との連携による臨床情報の更新に加え、最新の研究手法の導入を進めています。BBJが保管する試料・臨床情報・ゲノムデータは、個人情報の保護に万全を期す体制のもとで、様々な疾患や感染症の新しい診断・治療方法の開発を目指す研究者や企業のみなさまにご活用いただいています。BBJは、協力者のみなさまの尊いご意思とご期待にお応えすべく、BBJの貴重な財産がさらに活用されるように努力して参ります。ご協力いただいたみなさまに改めて御礼申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

バイオバンク・ジャパン(BBJ)をご紹介します

BBJの第1期事業は2003年に開始され、バイオバンクを東京大学医科学研究所内に設立しました。
 バイオバンクとは、ヒトの生体試料と関連する情報が体系的に保管された貯蔵庫です。BBJは患者さんからご提供いただいたDNA試料・血清試料などを適正な温度管理、かつ厳しいセキュリティのもとで管理しています。BBJは、約27万人の患者さんの試料・臨床情報を保有する世界最大級の疾患バイオバンクとして、世界のゲノム研究に貢献しています。
 BBJでは、試料等利用審査会で、研究機関や企業などからの試料・情報の利用申請について、厳正な審査を行った上で、試料・情報を提供しています。BBJは、試料・情報の利活用を促進し、他のバイオバンクなどとも連携しながらゲノム医療の実現へ貢献して参ります。



研究成果の紹介

胃・十二指腸潰瘍のなりやすさの遺伝学 —胃壁細胞分化とホルモン調節多様性が関わる—

東京大学の鎌谷洋一郎教授らの研究グループは、大規模なゲノムワイド関連解析により、胃・十二指腸潰瘍の発症に関連する25カ所の新たな遺伝的座位を同定しました。解析データから、胃の修復過程における消化管細胞の分化、およびガストリンとその受容体との連携が消化性潰瘍の形成に重要な役割を果たすことが示唆されました。本研究成果は、消化性潰瘍に遺伝的になりやすい体質を一定程度予測し、予防につながる事が期待されます。

詳しくは東京大学医科学研究所のホームページへ

https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/papers/page_00175.html

アジア最大の強皮症全ゲノム関連解析 —新たな遺伝背景との関連の同定と病態形成における関与の解明—

理化学研究所の寺尾知可史チームリーダーと東京大学の松田浩一教授らの研究グループは、難治性全身性自己免疫疾患の全身性強皮症(SSc)について、アジア人最大規模の全ゲノム関連解析を行い、新規の疾患関連一塩基多型の同定と病態形成の役割を解明しました。本研究成果は自己免疫疾患のゲノム研究の進展や、診断や治療など日常診療の発展に貢献することが期待されます。

詳しくは東京大学大学院新領域創成科学研究科のホームページへ

<https://www.k.u-tokyo.ac.jp/information/category/press/10771.html>

BBJ試料・情報の提供実績

2023年度(4~12月)の試料・情報の提供数については、下記のとおりです。審査開始から最短2週間程度で、試料・情報の提供が可能となっています。試料・情報に関するお問い合わせは、バイオバンク・ジャパン事務局まで、お気軽にお問い合わせください。

DNA試料	36,165本
血清試料	3,621本
臨床情報・ゲノム情報	1,751,883症例
試料等利用審査件数	52件(提供51件、保管1件)